

建設業を知ってもらうことをねらった。当日は、会員企業が札幌市内で請け負っている「札幌市立二条小学校改築工事」(伊藤・岩倉特定J.V.)、「開成中等教育学校流域貯留施設整備工事」(新太平洋建設株)の二現場を視察した。

## 札幌協が札幌市内2現場で見学会

一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)は二十一日、札幌市内の現場二カ所で札幌工業高校の父兄を招いて現場見学会を開催した。建設業を理解してもらうのが目的で、同校の教諭を含め二十一人が参加した。建築現場では父兄が作業所長に「墜落する危険はないのか」「雪が降ったら除雪はどうするのか」と質問していた「写真」。

高校生の保護者を対象とした現場見学会は、若手技術者の確保の一環で建設が初めて企画したもの。生徒の進路決定に影響をもつ父兄や教諭に

建設業を知ってもらうことをねらった。当日は、会員企業が札幌市内で請け負っている「札幌市立二条小学校改築工事」(伊藤・岩倉特定J.V.)、「開成中等教育学校流域貯留施設整備工事」(新太平洋建設株)の二現場を視察した。

## 建設業の魅力を紹介

場を視察した。

二条小学校改築では、現場近くの民間ビルに間借りしている事務所で説明会を開催。同協会の村井悟専務理事が現場見学の意義を、「建設業への理解を深めてもらうのが目的。ものづくりを感じていただければ」と強調した。

伊藤組土建の川口哲司作業所長も工事の概要を説明しながら、建設業の魅力を紹介。「建築に携わり三十年、二十〜二十五件の建築物を手がけてきた。五十歳を過ぎて魅力ある仕事」と自身の経験を踏まえて、ものづくりへの思いを訴えた。また、同社勤務二年目の屋仲政輝さんもおいさつし、「安全も考慮し、管理が難しい仕事ですが、それだけに達成感にはほかの職業では味わえない」と話した。一行は現場に移動し、川口所長の案内で安全対策の手順や型枠の工程の説明を受けた。子どもが建築科二年生という母親は、「子どもは就職希望だったが、インターンシップで刺激を受け、進学か悩んでいる。私も工事現場を見てみたいと思いついた」と言い、熱心に説明を聞いていた。

伊藤組土建の川口哲司作業所長も工事の概要を説明しながら、建設業の魅力を紹介。「建築に携わり三十年、二十〜二十五件の建築物を手がけてきた。五十歳を過ぎて魅力ある仕事」と自身の経験を踏まえて、ものづくりへの思いを訴えた。また、同社勤務二年目の屋仲政輝さんもおいさつし、「安全も考慮し、管理が難しい仕事ですが、それだけに達成感にはほかの職業では味わえない」と話した。一行は現場に移動し、川口所長の案内で安全対策の手順や型枠の工程の説明を受けた。子どもが建築科二年生という母親は、「子どもは就職希望だったが、インターンシップで刺激を受け、進学か悩んでいる。私も工事現場を見てみたいと思いついた」と言い、熱心に説明を聞いていた。

## 札幌工業高の父兄招き初開催

札幌建設協

# 建設業の実態理解を

## 札工父母対象に見学会初開催

札幌建設業協会(岩田 圭剛会長)は21日、札幌工高の「父母と先生の会」を対象とした工事現場見学会を初めて開いた。生徒の父母が現場を見ることで建設業への理解を深め、子どもたちが就職する際の参考にしてもらうことが狙い。一行は珍しそくに現場を眺め、職人たちの作業の様子に歓声を上げていた。

建設業は3K職場のイメージが強く、近年は若年者の入職が減少し、次代を担う人材の確保・育成が急務となっている。同建協では建設業の正しい理解につなげようと、PR漫画冊子を発行するなど、若者向けの情報発信に努めてきた。

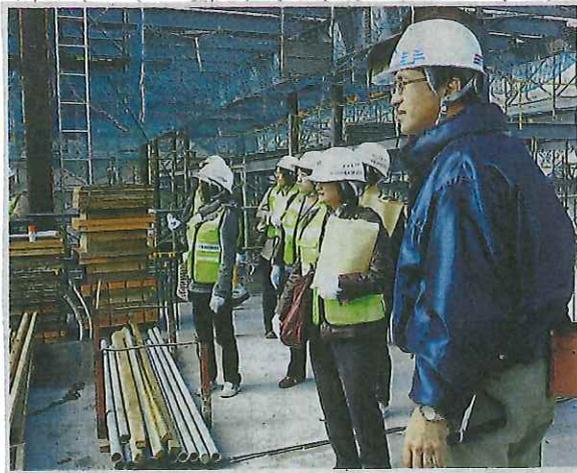
しかし一方で、2013年度に同校の全生徒を対象にしたアンケートでは、生徒の進路決定には保護者や教師の影響が強いことが判明。そこで、建設業の実態を正しく理解し、適切な進路指導につなげてもらうと、保護者や教師を対象とする現場見学会を企画した。

父母と先生の会のメンバーと教諭の計21人が参加。伊藤組土建・岩倉建設共同体が施工する二条小改築ほか主体(札幌市発注)と、新太平洋建設が担当する開成中等教育学校流域貯留施設整備(同)の2現場を見た。

二条小改築の現場では、まず事務所で川口哲司所長(伊藤組土建)が工事概要を説明。「入社して30年たち20以上の現場を担当したが、どの現場も忘れたことがない。自分の息子にも自慢できる仕事だと思っている」と自身の経験も紹介した。

このあと現場に入り、川口所長から安全に関する取り組みや、作業の進捗よく状況などを聞きながら、興味深そうに作業の様子に見入っていた。

父母と先生の会会長で、娘が土木科に通う川瀬美由喜さんは「現場を見ることは子どもたちが



普段は見ることのない作業に興味津々だった

就職をする際にも役立つと思う。また機会があればぜひ参加したい」と満足した様子。

札幌建協の村井悟専務理事は「皆さんに生き生きと現場を見てもらえたので、開催して良かった。こうした取り組みを続け、長い目で建設業界をPRしていきたい」と話していた。